

地球温暖化の防止

2016年度の総括

ホシザキでは、事業にともない排出するエネルギー起源のCO₂を削減するため、業務効率化や設備の更新などを通じ、生産性の向上につとめてきました。また、老朽化した空調機の更新や照明のLED化を実施しました。その結果、2016年度のCO₂排出量は13,047tで、前年比97.9%となりました。

引き続き、生産工程・生産設備の見直しを行い、CO₂排出削減につとめてまいります。

照明機器の切替えによる省エネ

本社工場の中央研究所では、3ヵ年計画に基づき事務所の照明を蛍光灯からLED照明へ更新しています。

2015年には1階の事務所を、2016年には2階の事務所の照明を更新しました。更新の結果、電力使用量を年間約44,000kWh削減することができました。

2017年にも、中央研究所の試験室の更新を予定しており、更なる省エネの推進を図ります。

空調機の更新による省エネ

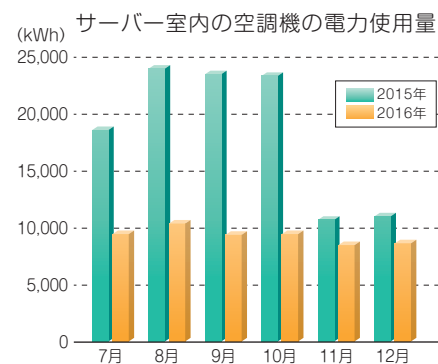
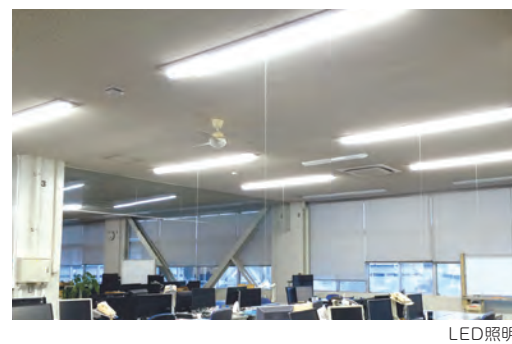
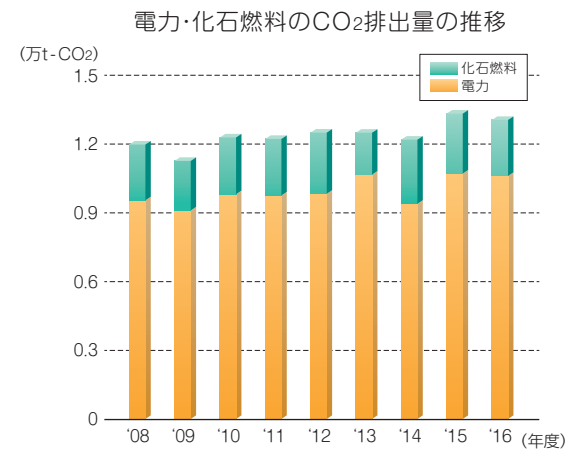
本社では、サーバー室内の空調機の更新に取り組めました。

サーバー室内の空調機は、365日24時間稼働しており、事務棟フロアの電力使用量の約20%を占める電力負荷が高い場所となっております。そこで、サーバー室内の空調機の電力使用量の約50%の削減を見込み、空調機を最新機に更新しました。

2016年6月から更新機の使用を開始し、2016年12月現在、半年間で、約55,000kWhの電力使用量を削減することができました。

また、空調機の冷媒フロンを、オゾン層破壊係数が高いHCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン、R22冷媒）から係数が0のHFC（ハイドロフルオロカーボン、R-410A冷媒）に切替えました。

今後も計画的に省エネの推進に積極的に取り組めます。



廃棄物の発生抑制

2016年度の総括

廃棄物の排出量削減の取組みは、Reduce（発生抑制）に主眼をおいて活動しましたが、2016年度の廃棄物排出量は約3,500tで、前年比102.1%となりました。

工場内のレイアウト変更にもなう設備などの廃棄や、工場内のスペースの有効活用のため長期保有していた試作機などを多く廃棄したことが原因となりました。

一方で、2016年度の再利用率は、廃棄物の分別の徹底や再利用の促進を図ることで2015年度の97.1%を上回る97.6%となりました。

引き続き、再利用率の一層の向上を図るとともに、金属・プラスチック材料などの歩留率向上を中心とした、廃棄物の発生抑制活動を推進します。

設備更新による廃棄物の発生抑制

ホシザキのチップ状やフレーク状の氷を作る製氷機では、「オーガ方式」と呼ばれる製氷方法を採用しています。冷却した筒（シリンダ）の内側に薄氷を作り、ドリル状の削り刃（オーガ）で氷を掻き出し、チップ状やフレーク状の氷を作ります。

オーガやシリンダの生産には、高い精度が要求されるため、他の部品と比較して加工不良による廃棄率が高い傾向にありました。

2015年から2016年にかけて、加工精度の向上と効率的な加工を目的として、設備の更新・増設及びレイアウト変更を実施しました。

設備の更新・増設については、計9台を実施し、加工精度が向上しました。レイアウトについては、作業者の動線に配慮し、より作業がしやすい環境となりました。

これらの取組みにより、加工不良による廃棄率が大きく減少し、また生産効率の改善に繋がりました。

